



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:	
学園辞令交付式	4
大学年度始め式	5
学長賞に3教授	5
設置校で卒業式	6
17人が定年退職	6
設置校で入学式	7
「若々しい体を」	8
宮地先生を偲ぶ	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel (0565) 48-8177

ピンポン外交記念モニュメント

後藤理事長ら出席し除幕式

ピンポン外交の歴史的意義を顕彰し世界平和へのメッセージを発信する記念モニュメントが愛知県体育館に設置され、五月十九日、中国の程永華駐日大使、大村秀章愛知県知事、後藤淳・名古屋電気学園理事長ら約百人が参加して除幕式が行



除幕されたモニュメントの前で後藤理事長を囲み記念写真を撮る、喜びの世界卓球選手権出場の元選手たち

われしました。(詳報2面)
戦後の冷戦時代に米中の関係改善、日中の国交正常化のきっかけとなったピンポン外交。一九七一年に同体育館で開かれた第三十一回世界卓球選手権がその舞台でした。背景には当時日本卓球協会会長として中国の参加に奔走した愛知工業大学の故後藤鉦二初代学長の並々ならぬ尽力があり、モニュメントは本学園にとっても意義深いものです。
式典で大村知事は「ここ愛知が劇的な歴史転換の舞台になったことを誇りに思います。日米中の友好平和のメッセージ



除幕式で挨拶する後藤理事長

ジを発信していきたい、後藤理事長は「ピンポン外交の意義をいつまでも忘れずに、若い人に伝えたい」と挨拶しました。

学園新体制、27年度スタート

学園は四月一日、人事異動を行い、新しい体制がスタートしました。この日は辞令交付式、年度始め式も行われ、平成二十七年度のスタートにあたって後藤淳理事長、後藤泰之学長が挨拶しました。
学園の辞令交付式は本部棟で新規採用者、任命・

大学・吉村選手 世界卓球「銀」

大学男子卓球部の吉村真晴選手(経営学科4年)は世界卓球選手権蘇州大会で石川佳純選手(全農)とペアを組んで混合ダブルスに出場し、5月1日の決勝に進出、銀メダルを獲得しま



吉村真晴選手と石川佳純選手(ニッタクニュース提供)

した。吉村選手は「率直にうれしい。苦しい場面があっても自分たちを信じてプレーしよう」と、石川さんとも話していました。今回のメダルは自分の卓球人生においても重要なターニングポイント。ここで自信をつけて世界で勝てる男になれるよう練習を積んでいきたい」と語りました。

中学、高校卓球部 そろって選抜優勝

一方、名電高校卓球部は十九年ぶり三度目、附属中学校卓球部も三連覇と今春の全国選抜でそろって優勝しました。中学は夏の大会を含めると全国大会五連勝中です。(詳報3面)

学研科長に江口一彦教授からです。また昇格は大学教員八人、専門学校教員一人、事務職員(管理職)一人の計十人でした。

後藤理事長は新規採用者に対する挨拶で「教職員一丸となって新しいスタートを切りたいと思います。皆さんの奮闘を期待しております」と激励の言葉を贈りました。(詳報4、5面)

「後藤鉀二先生の功績忘れない」

程永華・中国大使



左が後藤鉀二先生の写真。右は荘則棟選手とグレンコーワン選手の写真



除幕する後藤理事長(右から2人目)、大村知事(同4人目)、程大使(同5人目)

愛知県体育館に設置されたモニュメントは縦三メートル、横七メートルの陶板で、体育館西側の正面外壁に設置されました。水墨画をイメージしたモノトーンを基調とし、日中の現代書家が「平和」「友好」「愛」



挨拶する程永華中国大使

「夢」の四つの言葉を揮毫。日米中三国の国旗をモチーフとしたピンポン玉が縦横に飛び交い、多国間の対話が弾むさまを表現しています。ステンレス製銘板もはめ込まれ、後藤鉀二氏が中国チーム参加の要請に訪れた北京で周恩来首相と握手する貴重な写真も刻まれています。

除幕式で程大使も「この体育館から世界へ大きなメッセージが発せられました。そのきっかけを作ったのが後藤鉀二先生です。先生は文化大革命の最中に北京を訪れ中国チームの世界選手権参加を周恩来首相に直訴、その熱意にこたえて周首相が決断、参加が実

現しました。私たちはいつまでも先生の功績を忘れません」と称賛しました。また在名古屋米国領事館のステイブ・コバチー首席領事も「ニクソン大統領訪中は米国にとっても重要な出来事の一つ。この体育館がその発端です。除幕式に参加できたことを心より光栄に思います」と述べました。

この世界選手権に出場した元選手十六人も各地から招かれ、代表して竹内敏子中京大学名誉教授が「バスの中内で中国とアメリカの選手の交流が偶然始まったのも、国境を越えて卓球を愛する選手同士の心があつたからこそ」と振り返りました。式典後、喜びの元選手たちが後藤理事長を囲み記念写真を撮り合う光景も

見られました。

ピンポン外交は世界卓球選手権で、中国と米国の選手同士が交流を深めて両国に友好ムードが生まれ、その後の緊張緩和につながったスポーツ外交の典型として知られます。当時、日本卓球協会会長を務めていた後藤初代学長は「世界最強のチームが参加しない大会は意味がない」と、開催国の責任として国際的に孤立していた中国の世界選手権参加を当時の周恩来首相とも会見するなど奔走し、実現させました。



愛知県卓球協会会長を務める後藤淳理事長と同副会長の後藤泰之学長が記念撮影

大会では中国の荘則棟選手と米国のグレン・コーワン選手が握手する写真も報道され、卓球を通じた友好の高まりを演出したピンポン外交は今日まで高く称賛されています。しかしその功績を公に伝えるものがなく、記念碑設置を求める声も出ていました。愛知県では体育館が昨年開館五十周年を迎えたのを機に、その歴史的意義を将来に伝えるため設置を決めました。



モニュメントの全体図

ピンポン外交記念モニュメント除幕

おめでとう！ 吉村選手



世界選手権でプレーする吉村選手と石川選手
(卓球レポート・バタフライ提供)

世界卓球蘇州大会 混合ダブルス「銀」

世界卓球選手権蘇州大会の混合ダブルスで石川佳純選手とともに銀メダルを獲得した大学男子卓球部の吉村真晴選手。「悔しさもあり、うれしさもありですが、いい結果が残せてよかった。率直にうれしい」と喜びをかみしめる一方、チームとしては夏のインカレ、個人としても来年のリオ五輪を見据えて集中力を高めています。現在、世界ランキングが30位にまで急上昇

し「チャンス」と受け止めて、ジャパンオープンや韓国オープン、ユニバーシアードなど国際大会に積極的に挑戦していきます。

四十六年前の同選手権で同じ混合ダブルス優勝の杉本(本学OG、旧姓今野)安子さんは「とにかくメダルを取りたいと意気込んで出かけたのですが、ものすごく頑張ってくれて、準決勝で勝った時は泣いてしまいました。本当におめでとうございました。」と吉村・石川ペアにお祝いの言葉を贈っていました。

日本選手団の現地コーチ



大村知事から祝福される吉村選手。右は後藤理事長

を務めた鬼頭明監督は「吉村・石川はベスト16だった二年前のパリ大会に比べ、格段にレベルアップ。その力を発揮して素晴らしいプレーをしてくれました」と評価しました。世界選手権には本学から吉田雅己選手(経営学科三年)も男子シングルスに出場、二回戦で敗退しましたが、鬼頭監督は「吉田は世界ランク8位のポルトガルの選手を相手によく善戦した。勝つてもおかしくない良い内容でした」と振り返りました。

銀メダル祝賀会開く

学園と学園クラブ活動後援会は六月九日、名古屋国際ホテルで吉村選手の銀メダル祝賀会を開きました。来賓の大村秀章愛知県知事や豊田市の福嶋兼光教育長をはじめ関係者約百五十人が出席、お祝いと期待に包まれました。

後藤淳理事長は「吉村、吉田両選手、鬼頭監督の三君は日本の卓球の為、さらに望みを高く持って頑張っ

中高卓球部 選抜優勝祝う



選抜で優勝した名電高校卓球部
(「卓球王国」提供)

今春の全国選抜卓球大会でそろって優勝した名電高校、附属中学校両卓球部の祝賀会が五月十六日、メルパルク名古屋で開かれました。学園、クラブ活動後援会、高校卓球部OB会の主

てほしい」と述べ、辻本昌孝後援会副会長もお祝いの挨拶をしました。三週間前に愛知県体育館にピンポン外交のモニュメントを設置したばかりの大村知事は「堂々の銀メダル、心からお祝い申し上げます。モニュメントは名電卓球の歴史の結晶でもあります。これを励みに、選手の皆さんは益々頑張ってください」とお祝いと激励を述べました。最後に後藤泰之学長が謝辞を述べました。



選抜大会で3連覇し、メダルをかけてもらう附属中卓球部員たち

催で、関係者約百五十人が出席しました。後藤淳理事長が「中学は五連覇、高校も強くなり、力を振り絞ってよく頑張った。おめでとう」とお祝いを述べ、辻本昌孝後援会副会長、久野仁OB会会長もそれぞれ祝福の挨拶をしました。優勝報告で高校の今枝一郎監督は「選手たちは大きく成長し、それぞれ役割を果たしてくれました。この勢いで夏も頑張りたい」、中学の真田浩二監督も「勝てたのは選手一人ひとりがやるべきことをやってきたから。周りの多大な協力もありました」と述べ、両監督とも「選手たちは世界で活躍することを夢見て頑張っています」と口をそろえました。

新規採用21人、任命・昇格18人

新規採用

【大学教員】小塚晃透教授（電気学科）、横田崇教授（土木工学科）、城戸由能教授（土木工学科）、薩川恵一教授（建築学科）、村田剛志准教授（応用化学科）、小林富雄准教授（経営学科）、梶克彦准教授（情報科学科）、宗本理講師（土木工学科）、鈴木敏志講師（建築学科）

【高校教員】岩間博副校



新規採用者を迎えて行われた平成27年度辞令交付式

学園辞令交付式

後藤理事長が
幹部らに交付

長、安藤克典教諭、山田文彦教諭、森千恵子養護教諭、鈴木裕子教諭、建部恵子教諭、佐藤義晃教諭

【中学教員】小川智弘教諭、野澤聖也教諭

【事務職員】奥村俊三事務部長（入試センター）、原田大也事務職員（情報教育支援課）、山田愛理事務職員（入試広報課）

任命

【大学教員】渡辺修工学部長（機械学科教授）、田村隆善経営学部長（経営学科教授）、鬼頭繁治情報科学部長（情報科学科教授）、安藤光史基礎教育センター長（基礎教育センター教授）、江口一彦工学研究科長（電気学科教授）、山田英介学生支援本部長（副学

長）、津田紀生キャリアセンター長（電気学科教授）、手嶋紀雄教学センター副センター長（応用化学科教授）昇格

【大学教員】小西たつ美教授（電気学科）、鳥居一平教授（情報科学科）、伊



昇格の大学教員の皆さん



専門学校の
中山貴子教授



事務局の中條伸子広報課長

藤嶋浩教授（情報科学科）、矢野良和准教授（電気学科）、糸井弘行准教授（応用化学科）、松河剛司准教授（情報科学科）、澤野弘明准教授（情報科学科）、武田亘平講師（機械学科）

【事務職員】中條伸子課長（広報課）
若水で体育館など建設へ
学園は若水キャンパスで新しい体育館とグラウンドを整備します。敷地は一万三五〇㎡で、国から

この度取得した北校舎北側の隣接地一万一〇七〇㎡に既存の瑞若体育センター二四八〇㎡分を一体として整備するものです。
体育館は鉄筋鉄骨造り二階建て、延べ一八二五㎡。二階がアリーナ、一階は部室が移転するほか更衣室などが設置されます。また災害時用の防災用品も備蓄します。グラウンドは百m短距離走とコーナリングの練習コースおよび周回ランニングコースを整備します。
これまで体育の授業は神領の運動場までバスで移動しており、かなり時間を節約できます。完成予定は来年三月。



新規採用の大学教員の皆さん



新規採用の中高教員の皆さん



新規採用の事務職員の皆さん



任命の大学教員の皆さん

大学年度初め式

二〇一八年問題
危機感の共有を

大学の年度始め式は八草キャンパスで学園・大学の教職員が出席して行われ、後藤淳理事長は「昨年度も大過なく過ぎ、皆様方のご尽力に感謝申し上げます。学園は三年前に百年の歴史を数えました。それぞれの所では苦しい時もありましたが、その時々々の教職員が一丸となって乗り越え現在の姿があります。次の百年は皆さん方、学生もその一員であります、歴史を繋



挨拶する
後藤淳理事長

いでいつてもらいたい。先生方も新しい気持ちでいいスタートを切っていただきたい。これから一年、ご協力、ご尽力をよろしくお願ひします」と挨拶しました。続いて後藤泰之学長が挨拶、「本日は九名の新しい



挨拶する
後藤泰之学長

先生方をお迎えし、新しい仲間とともに新年度がスタートしました。都市環境学科が土木工学科に名称変更し、新たに防災土木工学科が完成し、電気学科と建築学科が新しい教育を始めます。ロボットミュージアムもできました。大学が直面しているのは二〇一八

年問題です。十八歳人口が急激に減ってきています。二〇一八年から二〇三一年の間に二〇%減ると言われています。進学率も頭打ちになっており、大学の入学者が六十五万人から四十八万人にまで二六%落ち込むと予想されています。既に私立大学の三分の一が定員割れを起こしており、非常に脅威であります。地方が消滅していく状況、産業空洞化などいろいろな要素が私立大学を取り巻いています。本学が継続的に発展していくためにはどう

したらいいか、真剣に考えていかなければならない。教育の充実、研究の活性化、地域との密接な連携を益々強化していくことが大事ではないか。本学が地道に続けてきたことを益々充実していけば間違いないと思います。危機感を共有し、一人ひとりが襟を正して具体的な目標を立てて行っていくことだと思います。元気で積極的に職務に取り組まれるようお願いしてご挨拶とします」と述べました。この後新規採用者と昇任昇格者が紹介されました。

学長賞に森田、伊藤、鳥居3教授



学長賞を受賞し後藤泰之学長（前列左から3人目）と記念撮影する左から鳥居一平教授、伊藤暢浩教授、森田靖教授

大学の平成二十六年「学長賞」は四月一日の大学年度始め式の席上、森田靖応用化学科教授、伊藤暢浩情報科学科教授、鳥居一平情報科学科教授の三氏に後藤泰之学長から贈られました

森田教授は平成二十六年四月に本学に赴任、主に有機中性ラジカルの設計・有機合成と基礎物性の解明の研究に従事した研究の振興の功績です。特に、設計・

合成した有機中性ラジカルの正極活性物質に用いた高性能な「分子スピンドル電池」の開発は特筆すべき業績です。米国科学アカデミー紀要はじめ科学雑誌「ニュートン」などに取り上げられました。日本化学学会の学術賞・進歩賞選考委員会の学会活動も行い、顕著な学術的活動をとおして多大な貢献をされました。伊藤教授は平成十八年四月に着任以来、ロボット関

連の研究に従事しており、特にロボカップジャパンオープン二〇一四において本学学生が優勝。また、ロボカップジャパンオープン二〇一六の本学八草キャンパスでの開催を提案し、実現に尽力しています。また、ロボカップ日本委員会の理事、ロボカップ国際委員会の Executive Committee 委員等を歴任し、多くのロボット関連イベントをとおして、本学の魅力や研究の面白さを積極的に伝え、多大な貢献をしました。鳥居教授は平成十九年四

月に着任以来、特にメディア情報関連の研究開発に尽力。注目すべき点は、研究開発する上において、本学の学生を指導しながら、成果物を取りまとめる点と、重度障害者の意思伝達のアプリの制作や各地においてプロジェクトチームを投入する等、その成果が社会に大変役立っているという点です。意欲的な研究活動をおして、本学の研究活動、広報活動、社会貢献に大きな役割を果たし、本学のさらなる発展に多大な貢献をしました。

学園各設置校の平成二十六年卒業式は三月二日の名電高校を皮切りに附属中学校が十三日、専門学校が十八日、大学が二十三日と順次行われ、卒業生たちは希望を胸に思い出の校舎を後にしていました。

学園各設置校で卒業式

大学

八草キャンパス・鉦徳館で行われ、総数一三三九人に後藤泰之学長から卒業証書・学位記が授与されました。本学の卒業生および学位取得者数は累計で六万一千八百八十六人になりました。

識や人間性を発揮して社会の発展に積極的に寄与されることを期待しています」と述べました。

続いて後藤淳理事長は「人と人との和、縁、絆を大切に、今日の卒業の喜び、夢を忘れないで明日からも頑張つてほしい」と期待の言葉を贈りました。

専門学校

校内大教室で行われ、六十七人が卒業しました。稲垣慎二校長が代表に卒業証書を手渡し「これから一層の研鑽努力を積みまれ社会の発展に貢献できるエースになられることを願っています」と式辞を述べました。

高校

同校内の喬徳館で開かれ、科学技術科一六一人、情報科学科三七人、普通科三九〇人の計五八八人が卒業しました。久保芳孝校長からそれぞれ代表に卒業証書が手渡されました。

久保校長は式辞で、サン・テグジュペリの名作「星の王子さま」の一節を引用し、「虚飾やバーチャルな世界の虚構に惑わされず、自分を信じて生きてほしい。自分自身を失いかけた時はこの言葉を思い出してほしい」と呼びかけました。

また後藤理事長は「学園の次の百年の力になつてくれるのは君たちです。活躍を楽しみにしています」と期待を寄せました。

中学

淳和記念館三階体育館で開かれ、一二〇人が学び舎を巣立ち

ました。久保芳孝校長が代表に卒業証書を手渡した後、式辞を述べ、アメリカの元プロ・バスケットボール選手マイケル・ジョーダンの「失敗することには耐えられる。誰でも何かに失敗はする。でも、挑戦しなれていることには耐えられないんだ」という言葉を紹介、「大切なことは四月から始まる新しい生活でチャレンジしていくことです」と励ましました。

17人が定年退職

平成二十六年年度の定年退職者辞令交付式が三月二十七日、若水キャンパス南校舎で行われ、後藤淳理事長が計十七人の退職者をねぎらいました。初めに後藤理事長が辞令を交付、後藤泰之副理事長が記念品を贈りました。後藤理事長は挨拶で「学園は三年前に百周年の区切りを迎えましたが、皆さん方、それぞれの部署で努力され歴史と伝統を築いてこられた。退職しても、何か一つ取り組みをしながら、まだまだ元気で頑張ってください。長い間、本当にありがとうございます。」



辞令交付の後、後藤理事長を囲み記念撮影をする定年退職者の皆さん

した」とお礼を述べました。退職者を代表して木村勝行都市環境学科教授が「本学の自由な学風は素晴らしいものでした。学園の益々の発展を祈念しています」と謝辞を述べました。

定年退職者は次の皆さん【大学教員】木村勝行、山田諄、沢田克敏、石田和人、中村満喜男、山本勝、村田護【高校教員】杉浦由直、今枝仁、内田勝美、佐々木大實、寺町泰明、松岡豊子【中学教員】杉浦滋【事務職員】西尾恭一郎、篠田正次、紫藤針枝



卒業証書を受け取る大学工学部代表



卒業証書を受け取る専門学校の代表



卒業証書を受け取る高校普通科代表



卒業証書を受け取る附属中学の代表

学園設置校四校の平成二十七年度入学式は、四月二日の愛知工業大学を皮切りに愛工大名電高校と愛工大附属中学校が七日、愛工大情報電子専門学校が八日に行われました。希望を胸に大勢の若者が学園に仲間入りしました。

学園各設置校で入学式

大学一六〇〇人余入学

大学の入学式は八草キャンパス内鉦徳館で行われ、工学部、経営学部、情報科学部の三学部に合わせて一四八六六人、大学院工学研究科と経営情報科学研究科には合わせて一一三一人が入学しました。学部三年次への編入は七人でした。

後藤泰之学長は式辞で「新入生の皆さんに、ひとつお願いがあります。周囲の状況や時代の風潮に流されることなく、落ち着いて、興味を持って打ち込め



愛知工業大学学歌を斉唱する新入生たち

る「何か」をまず見つけてください。すでに持つておられる方は、より確かなものにしてください。ロボット、エネルギー、コンピュータ、ビジネス、どんな分野でも構いません。本学には、高度な専門的知識や優れた技術を身につけた、エキスパートが沢山います。広いキャンパスと豊かな緑もあります。教職員一同、皆さんを全力でサポートします」と呼びかけました。

続いて後藤淳理事長が百年を超える学園の歴史を紹介した後、「次の百年は皆さんがこれから作ります。しっかりと勉強して、多くの仲間を作り人の輪を広げてください。今日の夢を実現するために頑張ってください」と挨拶しました。

高校には六〇八人入学

高校の入学式は喬徳館で行われ、六〇八人が入学しました。久保芳孝校長が普通科四一五人、情報科学科四二人、科学技術科一五一

人の入学許可を宣言。続く式辞でアップル社の共同設立者の一人スティーブ・ジョブズの「他人の意見で自分の本当の心の声を消してはならない。自分の直感を信じる勇氣を持ちなさい」との言葉を紹介し「皆さんには自分自身を信じて、自分の信じる道を、勇氣をもって歩んでいただきたい」とアドバイスを述べました。

後藤理事長も「将来の夢を大きく膨らませるようしっかりと勉強して、社会で貢献できる人に育ってください」と励ましました。



挨拶を聞く名電高校の新入生たち

附属中は一一八人入学

中学の入学式は淳和記念館三階体育館で行われ、一一八人が入学しました。久保芳孝校長は式辞の中で

イチロー選手の言葉を紹介し、「皆さんには、これと決めた目標に向かって日々小さな努力を積み重ね、自分の持つていける力を十分伸ばすとともに、一人の人間として大きく成長していただきたい」と激励しました。

後藤理事長も励ましの言葉を贈りました。

専門学校百人超す入学

専門学校の入学式は同校大教室で行われ、一〇七人が入学しました。稲垣慎二校長は式辞を述べ「皆さんは今日から輝かしい伝統を持つ名古屋電気学園の一員となりました。皆さんにお願いしたいのは、まず着実に資格を取るなどして実践力と自信を身につけて頂きたい。平成二十六年度の卒業生は平均四・八個の資格を取得しました。皆さんは五個以上を目指してください。教職員一同、全力でバックアップします」と激励しました。

続いて後藤理事長が挨拶に立ち「電気を中心にもつくりを学ぶのが本学園です。しっかりと勉強していただくと同時に、友達も大勢つくってください」と励ましていました。

あいわ幼稚園で卒・入園式 姉妹学園・あいわ幼稚園（名古屋市名東区）の卒園式は三月十四日行われ、九十四人が卒園しました。晴れ着姿の園児たちは一人ひとり、後藤泰之園長（愛工大学長）から修了証書を受け取り、父母らの盛んな拍手を受けていました。後藤園長は「卒園おめでとう。皆さんが立派に成長した姿を見てうれしく思っています。元氣いっぱい小学生になることを楽しみにしています」とお祝いの言葉を贈りました。卒園児たちは全員でお礼の言葉を唱和し、「卒園の歌」も合唱しました。

入園式は四月四日に行われ、年少組九十七人が入園しました。後藤園長が新入園児たちに「みなさんは今日からあいわ幼稚園のお友達になりました。明日から毎日元氣よく通ってください」と語りかけ、保護者には「愛、和、自由の建学精神の下、昭和四十一年の設立以来、おおらかな心、丈夫な体、豊かな情操を併せ持つ、明日の日本を担う芯のある子どもたちを育ててきました」と話しました。

「若々しい体づくりを」

愛名会総会 整形外科医・中村氏が講演



ストレッチの意義や体の動かし方を話す中村格子氏

プジャパンオー
ブン2016に
ついて説明、会
員各社の協賛を
呼びかけまし
た。

続いて講演会
に移り、整形外
科医師で横浜市
立大学客員教授
の中村格子氏
が「毎日をアク
ティブに！ 健
康・元気・キレ
イでいるための
体づくり」をラ

学園の後援組織「愛名
会」の平成二十七年総
会と講演会が五月二十九
日、名古屋東急ホテルで開
かれました。総会では佐々
木眞一会長が「愛名会は発
足以来十八年が経過し、昨
年度も学内企業展など様々
な活動に取り組みました。
二十七年でも活動をより活
発化していきたい」と挨拶、
二十六年度の事業報告や決
算、二十七年の事業計画
や予算などが報告されまし
た。この後、大学の就職状
況や二十七年の見通しに
ついて報告があり、また後
藤泰之学長が来春八草キャ
ンパスで開かれるロボカッ

ジオ体操とストレッチを上
手に取り入れて」と題し
て、約一時間お手本を示し
ながら話しました。
スポーツドクターとして
アスリートを支え、健康で
美しい人生をサポートして
いる中村氏は「健康がキレ
イの基本です」と筋肉や骨
など体の仕組みを説明、運
動を続けることの重要性を

「ブラバン！名電」発売
名電高校吹奏楽部のCD
「ブラバン！名電」が五月
二十七日、大手レコード会
社「ソニー・ミュージック
レーベルズ」から発売され、
六月八日付オリコン週間ラ

強調しました。「人間は年
齢とともに姿勢と体形が変
化していきます。筋肉が弱
くなることをサルコペニア
と言います。運動しないと
六十歳からは一年で一%ず
つ減っていき、七十歳まで
に10%減ります。特に衰え
やすいのが抗重力筋で例え
ば腿を持ち上げる筋肉が弱
まると姿勢が悪くなりま
す。介護が必要になる要因
の第一位は循環器の疾患よ
りこうした運動機能障害な
のです」と述べました。
さらに「寝たきりは一日
二千歩、認知症は五千歩、
動脈硬化や骨粗しょう症は
八千歩歩けば予防できると
いう研究もあります」と予
防法を紹介しました。
後半はラジオ体操の効用
を実際に体を動かしながら
説明。背伸びや胸反りなど
一つひとつの動きを解説
し、会員たちも立ち上がり
て練習していました。

高校同窓会副会長に永井氏
愛工大名電高校同窓会の
平成二十七年役員総会が五
月二十九日、名古屋市内で
開かれました。長尾楯夫副
会長が「若い人や女性にも
どんどん理事になつてもら
い、さらに活力ある同窓会
にしていきたい」と挨拶し
ました。



宮地先生のお別れの会

宮地先生のお別れの会
大学客員教授の宮地巖先
生のおれの会が四月六日、
名古屋国際ホテルで営ま
れ、大勢の関係者が参列、
遺影の飾られた祭壇に献花
して故人を偲びました。写
真。宮地先生は名古屋大学
を定年
後、昭和
五十五年
に愛工大
教授とな
り、その
後特任教
授、客員
教授を務
めました。七十年以上にわ
たって教育・研究に取り組
んだほか電気学会会長を務
めるなど電気学術の発展に
大きな功績を残しました。
今年二月一日に九十八歳
で亡くなり後藤淳理事長や

また副会
長に常任理
事の永井広
明氏。写真
氏が選出されました。永井
氏は昭和五十一年卒業。若
輩ですが長尾副会長から叱
咤を受け、微力ながら全力
で務めさせて頂きます」と
抱負を述べました。



後藤泰之学長のほか名古屋
大学、電気学会、中部電力
の関係者、親族の呼びかけ
で開かれました。
世話人を代表して後藤理
事長が「私が昭和二十五年
に名古屋大学へ入った当
時、宮地先生は助教で、
その頃東京からは錚々たる
若手助教が来ていまし
た。縁あって愛工大へ来て
いただいたのですが、大変
に研究熱心な方で九十歳を
越えてもまだ論文を書いた
りしていました」と思い出
を語りました。
教え子だった岩田幸二名
古屋大学名誉教授らが順次
挨拶しエピソードなどを披
露しました。スライド上映
や献杯があり、最後は高知
出身の宮地先生を偲んで、
出席者全員で「南国土佐を
後にして」を合唱しました。